

新商品をご紹介します！
～きらの活動より～

きらで運営している雑貨屋 mote（モート）より、オススメ商品を紹介いたします。

(1) マルシェバッグ

前面のさをり糸を切らず、そのまま垂らすようにデザインしました。ご購入後、お好みの長さに切ったり編んだり、好きにアレンジしてたったひとつのマイバッグを作ってください！



(2) ストール

さをり生地を贅沢に使っています。単色系が人気なので、同じ色合いで質感の違う糸を横糸に使用しています。冬～春先のオシャレに是非使ってください！！



職員同士で製品開発をしていると、ついついお互いに「かわいい！」と誉めあい自画自賛になってしまうことが多くあります。是非、たくさんのお客様の目に触れ、皆様から「かわいい！！」と言ってもらえるようにがんばりたいと思います。

イロドリ/コセイ
～ららの活動より～

ららでは1月の制作として

“節分の制作”を行いました！

今回みんなに作ってもらったのは

“鬼のお面”と“豆入れ”の2種類。どちらもたくさんの中からみんなに選んでもらい、カラフルな鬼ができあがりました。

色だけでなく、目や眉毛等の貼り方も1人ひとり違っているため、個性豊かな鬼がたくさん（＾＾）

毎月完成した作品はらら側の玄関に飾らせていただいていますので、お立ち寄りになられた際にはぜひご覧ください♪

そして2月3日の節分当日には、ららで豆まきを実施しました。

お面を身につけ、豆を豆入れに入れて準備万端。鬼が登場するとみんなが鬼に向かって一斉に豆を投げていました。「邪気を追い払い、1年の無病息災を願う」という意味合いを持つ豆まき。

今年1年皆様が健康に過ごせますように。



鬼は外、福は内！！
～にこの活動より～

こんにちは。にこの浅野です。2月はいろんな季節のイベントが盛りだくさん♪にこでは早速月のはじめに豆まきを行いました。

例年通りスタッフが鬼の役をと思いきや、今年中は・高生のお兄さんが張り切って鬼に変装し、スタッフと他のこどもたちで豆をまき…という少しユニークな形になりました。「お兄さん鬼」の名演技で会は大盛り上がり！大成功の豆まきでした♪

会の終わりには皆で落花生を食べたのですが、去年は落花生の殻剥きを大人に頼んでいた子が器用に殻剥きをしてひとりで食べている姿が見え、そんなところにも子どもたちの成長を垣間見た気がします。

今月は雪遊びやお菓子作りも企画しているので皆さん楽しみにしててくださいね☆



お知らせ①

今年度、「生活介護事業所きら」に新棟を増築致しましたが、現在児童のサービスをご利用いただく方の声や上越市内の生活介護事業のニーズを受け、ただ今第二生活介護事業所開設に向けての準備を進めております。開所時期については平成30年4月を予定しております。今後、詳細につきましては説明会等を開催しながらお伝えしていきたいと考えています。説明会の予定については通信等でお知らせしますのでよろしくお祈り致します。



お知らせ②

以下の通り、職員の人事異動がありましたのでお知らせ致します。

異動 梅川 ひとみ（サンクスレールの森より）1月21日付

～よろしくお祈り致します～

退職 平野 陽子 1月31日付

～お世話になりました。ありがとうございました。～

いとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2017年2月

「今年の冬は大雪らしいよ」という話も何とやら。暖冬のまま、春を迎えられそうですね。「通勤や送迎などが楽だな」と現実的なことに目を向けるだけではなく、冬ならではの過ごし方が少なくなってしまうことを寂しく思えるような心の余裕も欲しいものです……。りとるらいふ通信2月号をお届けします！！



支援現場を支えるひとたち

～プロフェッショナル 仕事の流儀 りとる ver～ 第三弾: 運転手・短期入所補助

普段皆さんとお会いする機会が少ない、支援現場の裏で我々をサポートしてくださっている部門に突撃し、仕事の内容や普段思っていることをインタビューするという企画「プロフェッショナル 仕事の流儀 りとるバージョン」。第三弾は、ドライバーチーム&短期入所サポート職員です！

(以下インタビュー)

編集委員 仕事の内容を教えてください。

皆さん 主に「きら」をご利用される方の朝、夕の送迎と放課後等デイサービス事業所で学校～事業所間の送迎に携わっています（取材時、もう一人の運転手さんである相馬職員は児童さんのお迎えに行っていました）。今はご利用者様も増え、運転業務に携わる職員も増えたので月1回きら所長と打ち合わせを行なっています。運行ルートの確認が主です。

編集委員 仕事をしていて楽しいことや醍醐味を教えてください。

大滝職員 利用者

さんが元気に

「おはよう」

「ありがとう」と

挨拶をしてくれたり笑顔を返してくださる時が一番ですね。

竹内職員 障害のある方との接点はこの仕事で初めてですが、慣れずはどうしたら良いのか？と思うこともありましたが、少しずつ慣れてきたこともあって構え過ぎずに関わらせて頂いています。経験が長い、渡辺さんはどう？

渡辺職員 元々、「自分たちと変わらない、同じ」と思っていたのであまり不安のようなものはなかったですね。

「今日はあまり元気がないな」とか「今日はいい表情して

いるな、楽しいことが

あったのかな」など

きらからご自宅までの

短い時間ですが利用者

さんの様子を見ながら

関わらせていただくことが嬉しいです。

皆さん まだよく分からないこともあって「今話しかけても良いのかな?」「話しかけると少し困った表情をされたから話しかけるタイミングを間違えたな」と反省することも多いです。

編集委員 なるほど。でも私たちは車中のご様子を直接見る機会が少ないので情報をもらうことで利用者さんの新たな一面に気付くことが出来るかもしれませんね。

編集委員 では、最後に……。皆さんにとって「プロフェッショナル」とは？

皆さん ご利用者さん、ご家族が安心して「任せる」ことが出来る人（こと）。これからも「安全第一」で利用者の皆さんから安心して送迎車に乗っていただくことが出来るよう、頑張ります！！

りとるらいふの利用者さんは車の移動を好まれる方が非常に多いのですが、乗った時の感覚や車窓から見える景色だけではなく、運転手さんたちの温かな関わりから生まれる「心地よさ」もその一つということを感じました。「安全第一」をモットーにこれからもよろしくお願いいたします。

続いては、短期入所を陰からサポートする橋本職員へのインタビューです！！



編集委員）仕事の内容を教えてください。

橋本職員）ご利用者様が来所されたときに困らないよう、準備を行っています。具体的には、夕食作りやタオル等リネンのセット、お風呂や記録の準備等、業務内容は様々です。また、土日のお弁当も作っています。

編集委員）毎日おいしい夕食を作っているということですが、おすすめの夕食メニューはありますか？

橋本職員）豚のステーキです。

ご利用者様にはお肉が人気。

夕食は食材配達サービスを利用して食を作っています。



編集委員）仕事をしていて楽しいことや醍醐味を教えてください。

橋本職員）朝出勤した際に、ご利用者様や宿直者の方が笑顔で「おはようございます」と挨拶をしてくださるとき。毎日元気をいただいています！

編集委員）仕事で難しさを感じることはありますか？

橋本職員）個々のご利用者様に合わせた様々な準備があり、それを覚えることに少し時間がかかりました。また、限られた時間の中でやる

べき業務を終えなければならないということが難しいなと感じました。

編集委員）仕事をしている上で大切にしていることを教えてください。

橋本職員）様々な人とのつながりです。仕事をしている中で「ありがとうございます」と感謝の言葉を言われることがあります。周りの方から助けていただくことも多くあり、毎日感謝の気持ちでいっぱいです。皆様、いつもありがとうございます。

編集委員）それでは…最後にこの質問を！あなたにとっての「プロフェッショナル」とは？

橋本職員）仕事を教えていただいた先輩かな？と思っています。その方からは仕事の内容はもちろん、ご利用者様のことであったり

仕事に対する姿勢等、とても多くのことを学ばせていただきました

これからもご利用者様が過ごしや

すい環境を作っていけるように

日々努力していきます。



3回にわたってお伝えしてきた「支援現場を支える」りとのプロフェッショナルたち。いかがでしたでしょうか？どんな分野でも同じと思いますが、各々の役割がありお互いの連携があってこそ、良い仕事ができるものであると思います。取材に協力いただいた皆さん、ありがとうございました。お会いする機会は少ないと思いますが、見かけた際は「OOさん！」と声をかけてくださいね。

「今年やってみたいこと」（岡本職員からのリレーテーマ）

今年やってみたい事というか、今年も継続できれば良いなということを書きます。毎年、一回は家族旅行をしようと決め夏休みに実施しています。10年位前から、子ども達が大きくなり旅行はキャンプへと変わりました。昨年は娘が受験生ということで初めて息子と妻の3人キャンプとなり、少し寂しい気持ちにもなりました。

ふと考えると、子ども達と一緒に過ごせる時間もあと数年だなどの思いもあり、今年は高校生になる娘ともキャンプを継続したいとの気持ちです。さすがに高校を卒業した後は無理かなとも思っていますが、子どもと大人の間の子たちにキャンプ・旅行を通じて、家族で過ごすことの大切さを感じてもらえればなと思っています。

段々と親離れる子供たちへ、将来自分達も築くであろう家庭で大切にしてくれたらなとの思いを胸に、“今年もキャンプへ行きます”。



事務長 小林克大

「子どもの頃の夢」（はなれ金子所長からのリレーテーマ）

エレクトーンの先生。それが私の小さい頃になりたかった夢です。

私は保育園の頃からエレクトーンを習っていました。習い始めたきっかけは、家にあったエレクトーンを弾いてみたら楽しかったから。そんなちょっとした理由から習い始めたのですが、実際に習い始めてみるとどんどん魅力にはまっていきました。もちろん、自分が思った通りに弾けずに悩むことも多かったのですが、ステキな先生たちに会おう中で夢への気持ちも膨らんでいった気がします。

演奏が上手で、作曲もできて、丁寧に教えてくれる…そんな先生たちが小さい頃のわたしにとって憧れの存在でした。

今でも音楽が好きなのは、これまでの

経験があったおかげだと思っています。

今までの出会いに感謝しながら、これから

も感謝の気持ちを大切に日々過ごして

いきたいです！**らん支援員 飯澤麻衣**

次回でいよいよレールはゴール。

ラストを飾るのは、らん笹川児発管と

らん秋元職員です。お楽しみに！！



映画のはなし

社会福祉法人みんなていきる
副理事長 片桐公彦

最近に書いたこのコラムを読み返していたら一億総活躍だの働き方改革だの人口減で痩せていく日本についての、小難しく重いテーマが続いていました。反省しています。今回はちょっと横にずらして、映画のことを書こうと思います。どうか肩の力を抜いて、気軽にお読みください。時間がないかたはどうぞ、読み飛ばしてくださいませ。

僕は熱心な映画ファンというわけではありませんし、映画館に頻りに足を運んでいるわけでもないのですが、月額定額制の映画配信サービスで月に10本~15本程観ています。以前は「hulu」というサービスを利用していました。去年から「Netflix」に乗り換えました。どちらも充実しているのですが、どちらかというと「Netflix」の方が自分好みの作品が揃っているのをごちらを選択しています。ちなみにドラマ系も好き、という方は「hulu」の方をオススメします。

僕は海外のサスペンス系のものが好きなのですが、何度も観ているのは「ミレニアム」というスウェーデンの映画です。この映画はやはりスウェーデン作家のステイグ・ラーソン原作のサスペンス小説が原作です。この映画は面白いエピソードがあって、実はスウェーデンとアメリカでそれぞれ製作されているという珍しい映画です。スウェーデンでは2009年に、アメリカでは2011年に映画化されています。アメリカでのタイトルは「ドラゴンタトゥーの女」というタイトルになっているので、このタイトルを聞いて「あー、あれね」と思った方もいらっしゃると思います。（デビット・フィンチャー監督の作品ですね）アメリカ版の方に出演したヒロイン（とっていいのかどうか迷う役柄ですが）のリスベット・サルンデル役をルーニー・マラーというニューヨーク出身の女優さんが演じているのですが、彼女は前年にSNSサービスの巨人「フェイスブック」の創設者であるマーク・ザッカーバーグの友人たちとの栄光と愛憎を描いた「ソーシャルネットワーク」という作品があります。こちらで可憐な演技を魅せてくれました。マラーは「ドラゴンタトゥーの女」では、数々の社会的な問題を抱え、コミュニケーションにも困難が付きまとい、後見人がついているトランスジェンダーの女性という難しい役柄に挑戦して、この演技がまた素晴らしいものでした。こういう作品の女優さんをみていると「やっぱプロの女優さんてすごいなあ」と思ってしまいます。とはいえ全体的な作品の完成度という点でスウェーデンで製作された「ミレニアム」の方が自分は好きだったので、「ミレニアム」は3部構成の作品になっていますので、見応えの重厚感はなかなかのものです。連休があって、どこにも外出せずに映画だけに没頭したい、という時にはオススメの作品です。

日本映画でいうと最近、観た映画でのオススメ映画は「シン・ゴジラ」です。日本のエンターテインメント技術が結集されていた素晴らしい映画でした。迫力と壮大さと綿密な場面や状況の設定はさすが庵野秀明、と唸らずにいられない一本です。エンターテインメントという枠組みでいえば見逃せない作品だと思います。長谷川博己の誠実で野心のある政治家役も良かったですが、脇を固めた大杉漣、竹野内豊、高良健吾、余貴美子、國村隼、高橋一生、市川日美子などのそうそうたる俳優陣の演技は驚嘆の一言。「有名俳優女優をただ集めた」というだけではない気迫を感じました。特に高橋一生と市川日美子の演技は突出していたと僕は感じました。日本にもまだ若くて未来を感じさせてくれる俳優がまだいるんだなと希望を感じた演技力でした。

次にご紹介したいのは「終戦のエンペラー」という映画です。これは第二次世界大戦終了後の1975年、GHQ最高司令官であるダグラス・マッカーサーがやってきて日本統治のための活動を展開します。マッカーサーの命令を受けたボナー・フェラ

ーズ准将は実は日本と深い関わりがあり、その理由はアメリカに留学し、戦時中は日本で暮らしていた日本人女性と恋をしてたからでした。フェラーズはごく短い期間の中で日本政府の要人と接触し、開戦に天皇がどのように関わっていたかを調査しつつ、恋人の行方を捜すという物語です。あまり内容を詳しく書いてしまうとこれから観る方はつまらないと思いますので、見所だけお伝えすると、終盤のマッカーサーと天皇の面談シーンは秀逸です。興行的にはぱっとしない映画だったようですが、アメリカ視点から描かれた戦後の日本をいう意味では味わい深い映画かなと思います。そうそう、この作品ではフェラーズ准将の恋人である島田あや役を初音映莉子さんという女優さんが演じています。彼女はこの作品でハリウッドデビューするわけですが、対戦国の軍人と恋に落ち、時代に翻弄される悲しき日本人女性の姿を見事に演じていました。彼女の演技を見るだけでもこの映画を観る価値があると思います。

僕は劇映画だけでなくドキュメンタリーもよく観ます。「エンターテインメント性」があって「ユニークな」という視点でいうと「二郎は鮎の夢を見る（Jiro Dreams of Sushi）」という映画が好きです。ミシュランの三ツ星を獲得している東京銀座の鮎屋「すきやばし次郎」の店主小野二郎さんを中心にした人々との関係や三ツ星を獲得するに至った食材へのこだわりや味を引き出す手法、技術獲得のプロセスなどが描かれています。この作品はアメリカ人スタッフにより製作され、アメリカでも大ヒットしました。お鮎が好きなのはもちろんですが、そうでもない人も一度ご覧いただくと「仕事」への考え方や物事の捉え方に少し変化があるかもしれません。そしてラストシーンにはちょっとびっくりします。随所に登場する料理評論家の山本益博さんの存在が作品にゴージャスさと趣きと感動をふりかけています。観終わった後に「お鮎食べにいかなきや」と思ってしまう、そんなドキュメンタリーです。

まだまだ紹介したい映画が山のようにあるのですが、文字数の関係でご紹介することができません。最近では映画館で映画を観ることがかなり減ってしまっていて冒頭に書かせていただいたように、月額定額制の映画配信サービスを利用して観ています。出張先でパソコンで観たり、夜寝る前にちょっと観たりしています。日々日常では現実的なことに向き合うことが多く、困難に立ち向かわなければならぬ状況があるので、映画の世界に浸る時間は自分にとってはとても大事なリフレッシュや良い意味での現実逃避になっています。衝撃的なシーンにドキドキしたり、美しい恋物語にうっとりしたり、人の人情にほろりときたり、主人公の発した言葉に自分を重ね合わせてハッとしてみたり、スマートな主人公が颯爽と悪者を退治する場面にスカッとしてみたり、剽軽なキャラクターの動きにクスリと笑ってみたり、仕事やプライベートや自分との距離を少し取るには映画はとても大事なアイテムです。

ああ、こんな事を書いていたらまた映画が観たくなってきました。ちなみに今、観てみたい映画はオダギリジョー主演の「オーバーフェンス」に常盤貴子の「だれかの木琴」。。そうそう木村大作監督の「剣岳」もう一回観てみようかな。松田龍平の「船を編む」もいいなあ。外国映画だとローラも出演しているミラ・ジョヴォヴィッチの「パイオハザード ザ・ファイナル」は映画館で観たいなあ。あ、寅さんの映画を僕は観たことがないので、一度は観てみようかな・・・でもやっぱり一番は娘と観る「となりのトトロ」でしょうかね。